

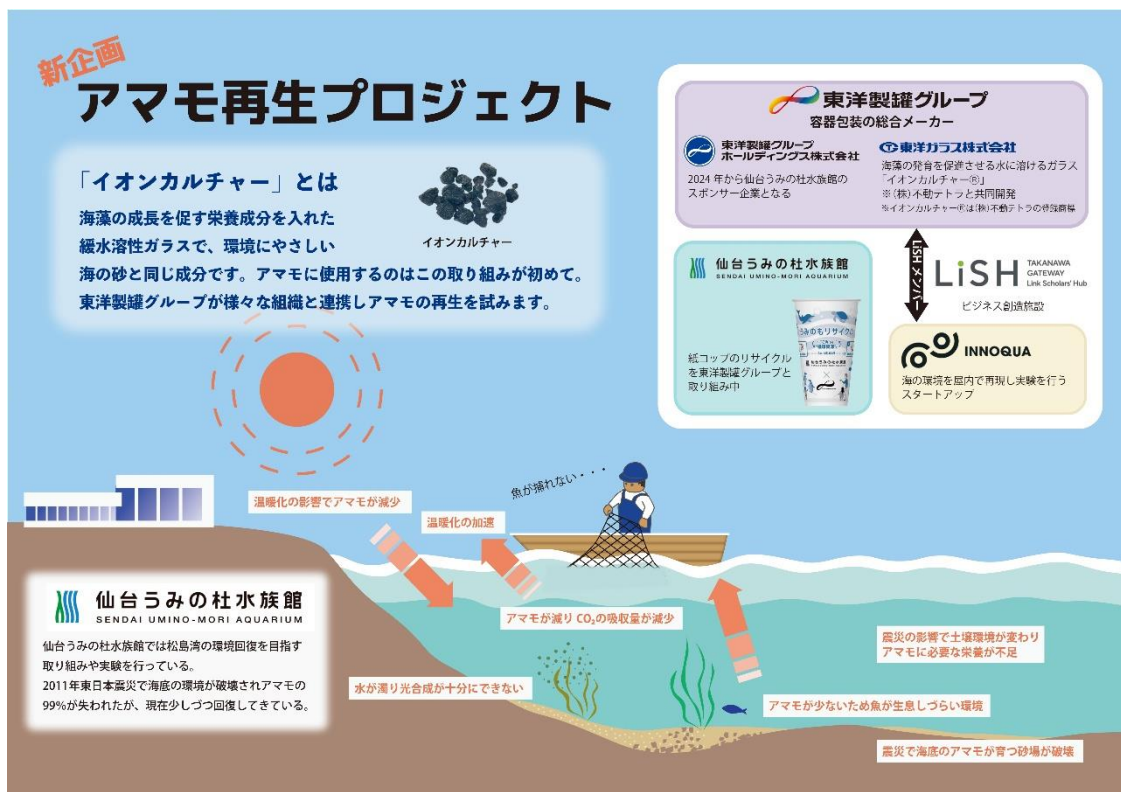
全国でのブルーカーボン生態系の回復と生物多様性の保全に向けて アマモ再生プロジェクトを始動

-仙台うみの杜水族館、環境移送ベンチャーのイノカと共同で調査・検証開始-

東洋製罐グループホールディングス株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：中村琢司、以下「当社」）は、海藻などが大気中の CO₂ を吸収し海底に長期貯留する「ブルーカーボン」の回復、および生物多様性の保全に向けて、2025 年 8 月末より、アマモ場の再生を目指すプロジェクトを実施しています。

本取り組みでは、当社の連結子会社である東洋ガラス株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：野口信吾、以下「東洋ガラス」）が株式会社不動テトラと共同開発した藻類増殖材「イオンカルチャー」を用いて、仙台うみの杜水族館におけるアマモの成長観察調査・展示と、株式会社イノカ（本社：東京都文京区、代表取締役 CEO：高倉葉太、以下「イノカ」）と共同でのアマモ成長促進効果の科学的検証を TAKANAWA GATEWAY CITY のビジネス創造施設「TAKANAWA GATEWAY Link Scholars' Hub (LiSH)」^{※1} の水圏ラボにて行います。

当社は今後、本取り組みで得られた知見を活用し、宮城県の地域漁協や自治体との連携を通じた沿岸部でのイオンカルチャーの実装とアマモ場の再生を目指します。そして、全国のアマモ場への応用にもつなげることで、脱炭素社会と自然共生社会の実現を推進していきます。



仙台うみの杜水族館に展示予定のパネル

※1 多様で先端的な知や技術を持つ人（Scholars）をつなげ、かけあわせる（Link）ことで、新たなビジネス・文化を創造することを旨とする JR 東日本が運営する施設です。JR 東日本は、本施設を通じて、共創会員との実証実験の実施・新規プロジェクトの創出に取り組んでいます。

■本取り組みの背景

アマモは、「ブルーカーボン」生態系の創出に寄与するものとしても注目されているだけでなく、「海のゆりかご」とも呼ばれ、稚魚や小動物のすみかとなるほか、海中の窒素やリンなどの栄養塩類を吸収して水質を浄化する役割も担っています。

しかし、2011 年の東日本大震災の影響により、多くの沿岸地域のアマモ場が流失しました。そして、震災から 10 年以上が経過した現在も、水質の変化や環境条件の悪化により、アマモ場の自然回復は進んでいません。アマモ場の減少は震災の影響のみならず、現在では全国的な課題となっています。

そこで、アマモの生育に必要な栄養成分の溶出量・溶出速度をコントロールできるイオンカルチャーを活用することで、震災による被害を受けた地域のみならず、磯焼け※2 の影響を受けている地域を含めて、全国のアマモ場の再生を目指します。

※2 沿岸海域に生息する海藻の多くが死滅し、それに伴ってアワビなどの水棲生物が減少し、漁業に大きな打撃を与える現象

■本取り組みの詳細

【仙台うみの杜水族館でのアマモの成長観察調査・展示】

当社は、2024 年より仙台うみの杜水族館（宮城県仙台市）とスポンサーシップ契約を締結し、「ごみを“資源”に変える」循環型社会を目指したリサイクル推進活動などの取り組み※3 を進めてきました。

今回は、同水族館内にて、イオンカルチャーを使ったアマモの成長観察のほか、本取り組みに関する展示を行うことで来場者に自然と科学のつながりを伝えます。

実施内容：

- ・イオンカルチャーを使用したアマモ展示水槽での、アマモの成長観察調査
 - ・取り組み概要およびイオンカルチャーの説明パネル展示
 - ・子ども向け絵本物語「うみのこアマンとひみつのごちそう」パネル展示
- （展示期間：2025 年 9 月 1 日～9 月末予定）



仙台うみの杜水族館のアマモ
（イオンカルチャー使用前）



「うみのこアマンとひみつのごちそう」パネル

※3 「仙台うみの杜水族館」とスポンサーシップ契約を締結 – 美しい海や海洋資源の保全と地域貢献の取り組み –

(2024 年 4 月 3 日付プレスリリース)

https://www.tskg-hd.com/news/detail/2024_04_03-news-release.html

【TAKANAWA GATEWAY CITY の水圏ラボでのアマモ成長促進効果の科学的検証】

水族館での観察調査に加え、科学的な視点でイオンカルチャーのアマモ成長促進効果について検証を進めます。今回、海をはじめとした水域の自然環境を陸地に再現する環境移送ベンチャーのイノカと連携し、科学的検証に取り組みます。

当社とイノカは、2025 年 5 月に開業した高輪ゲートウェイ駅直結のビジネス創造施設「TAKANAWA GATEWAY Link Scholars' Hub (LiSH)」の会員になっており、本検証は同施設内にある水圏ラボにて実施されます。

実験項目：

- ・イオンカルチャーあり／なしでのアマモの生育比較（成長速度、光合成効率など）
 - ・水温・光量など一定条件下での成長変化の記録
- （実験期間：2025 年 8 月末～10 月末予定）



実験水槽

■イオンカルチャーについて

イオンカルチャーは、東洋ガラスと株式会社不動テトラが共同開発した藻類増殖材で、海洋植物の成長を促進する二価鉄やケイ酸、リン酸イオンといった成分がゆっくりと水に溶け出すよう成分調整を行ったガラス製品です。磯焼け※4 の原因とされている二価鉄イオンの不足を補うガラスの開発に着手し、1993 年にイオンカルチャーを製品化しました。

製品詳細：[https://www.tskg-](https://www.tskg-hd.com/business/topics/detail/bt_ion_culture.html)

[hd.com/business/topics/detail/bt_ion_culture.html](https://www.tskg-hd.com/business/topics/detail/bt_ion_culture.html)



イオンカルチャー

※4 沿岸海域に生息する海藻の多くが死滅し、それに伴ってアワビなどの水棲生物が減少し、漁業に大きな打撃を与える現象

東洋製罐グループについて

東洋製罐グループは、金属・プラスチック・紙・ガラス等、それぞれの素材が持つ特性を活かしたさまざまな容器をグローバルに提供する総合包装容器メーカーです。包装容器事業のほか、エンジニアリング・充填・物流事業、銅板関連事業、機能材料関連事業、不動産関連事業の5つの事業を有しています。

当社グループは、社会や地球環境について長期的な視点で考え、すべてのステークホルダーの皆さまに提供する価値が最大化するよう、2050年を見据えた「長期経営ビジョン 2050『未来をつつむ』」を2021年5月に策定しました。当社グループの目指す姿・ありたい姿を「世界中のあらゆる人びとを安心・安全・豊かさでつつむ『くらしのプラットフォーム』」と位置づけ、「多様性が受け入れられ、一人ひとりがより自分らしく生活できる社会の実現」「地球環境に負荷を与えずに、人々の幸せなくらしがずっと未来へ受け継がれる社会の実現」を目指し、事業活動を推進していきます。

1917年に創立し、国内44社（東洋製罐グループホールディングス含む）、海外50社のグループ会社を擁し、約19,000人の従業員が働いています。2025年3月期の連結売上高は9,225億円です。

<https://www.tskg-hd.com/>

■お問い合わせ先

東洋製罐グループホールディングス株式会社

サステナビリティ推進部 コーポレートコミュニケーショングループ 中野利・高田・柿本

TEL : 03-4514-2026 Mail : tskg_contact@tskg-hd.com

以 上